

演題名：本邦の外科専門医研修における地域格差：外科修練に関する全国アンケート調査をもとにしたサブグループ解析

[演者] 林 沙貴:1, 小西 孝明:2

[共同演者] 喜安 佳之:3, 福本 将之:4, 古来 貴寛:5, 野村 信介:6, 山本 直宗:7, 渡邊 元己:8, 渡部 純:9, 齊藤 光江:10

1. 金沢大学消化管外科学/乳腺外科学
2. 東京大学乳腺内分泌外科
3. 京都大学消化管外科
4. 長崎大学大学院移植・消化器外科
5. 札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科
6. 早水公園クリニック
7. 徳山中央病院外科
8. 大阪市立総合医療センター肝胆膵外科
9. 自治医科大学消化器一般移植外科
10. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

【背景】 近年、外科医の地域偏在が問題視されている。一般的に、大都市と比較し地方は給与が高い、労働時間が長い、修練環境が整っていないという印象を持たれるが、外科修練医の修練環境に関する地域格差の実態は明らかではない。

【目的】 外科修練医の修練プログラムおよび労働環境に関する地域格差について検討する。

【方法】 日本外科学会教育委員会 U-40 ワーキンググループは、令和 4 年度の外科専門医試験合格者全員を対象に、若手外科医の修練の現状を把握するためのオンラインアンケートを実施した。この全国アンケート調査をもとに、大都市修練群と地方（地方都市+過疎地域）修練群に分け、修練医の修練と労働環境の地域差について検討した。グループ間の比較は、連続変数については Mann-Whitney U 検定、カテゴリ変数については χ^2 検定を用いて行った。 $p < 0.05$ を有意とした。

【結果】 大都市修練群 317 名 (42%)、地方修練群 439 名 (58%)であった。地方修練群の修練地は地方都市 410 名 (54%)、過疎地域 29 名 (4%)であった。地方出身者の割合は大都市修練群では 35%、地方修練群では 76%であった ($p < 0.01$)。地方修練群の 23 名 (5%)は地域枠制度、奨学金制度のため地方での修練を選択した。修練プログラムについては、大学病院勤務期間 2 年以上が大都市修練群で有意に多かった (47% vs 15%, $p < 0.01$)。全身麻酔手術執刀数、論文執筆数、off the job training の受講機会、指導医への満足度、修練プログラム全体に対する満足度は両群間に有意差はなかった。労働環境については、修練プログラム最終学年における年収中央値（範囲）は大都市修練群 900 万円 (100-3800 万円)に比べて

地方修練群 1000 万円 (100-2700 万円)と有意に高かった ($p < 0.01$)。時間外労働時間や当直回数、ハラスメントを受けたと感じる人の割合については両群間に有意差はなかった。

【結語】若手外科医にとって、修練プログラムについて、大都市と地方の地域格差は認めず、プログラムに対する満足度は差がなかった。労働環境については、地方修練群の収入が高く、その他の労働条件は差がなかった。